

農業の将来連携で築く

東広島市でこれからの農業を引っ張っていく担い手がネットワークづくりのきっかけにする意見交換会が13日、福富町で始まった。市の主催で、22日まで市内を4地区に分けて順次開かれる。

悩みやアドバイスを語り合う参加者



東広島市 農家や准教授ら意見交換

この日は福富、豊栄、河内3町の農業法人や認定農業者、新規就農者たち約40人が参加。農業委員や県市の担当者たち関係者約50人も加わった。

まず農家の2人が、労働力不足などの課題や、飼料用稲の栽培など耕畜連携の取り組みを報告し、議論のたたき台とした。参加者は5班に分かれて「違う作物を育てる農家同士で、働き手を共有できないか」などと意見を出し合った。

学生数人と参加した広島大学大学院生物圏科学研究科の細野賢治准教授(47)は「農業経済学Ⅱが好評。キーワードは連携。法人と個人、農家と企業、稲作と酪農など、連携を進めれば地域全体の農業が底上げされるのでは」と話した。(新本恭子)